

除雪機、農業機械製造、鋼材加工販売のフジイコーポレーション(本社・燕市、社長・藤井大介氏)は昨年末、経済産業省の地域未来けん引企業に選定された。経産省によると各企業の選定のポイントは地域経済への影響が大きく、成長性が見込まれ地域経済のバリューチェーンの中心的担い手であること。同社はこれまで地域の取引先を優先する購買方針、また古くからの取引先を優先してきた。その他、グリーン調達で環境に配慮する。

藤井社長は「機械事業の場合、県内で購入ができない品目を除くと90%以上を県内で調達している。一方で県内への販売金額は10%ほどで新潟県の『貿易黒字』や活性化に貢献している」と語る。

外国人材の採用にも積極적이다。大学の留学生の受け皿になっており、在学中からインターシップで受け入れる。留学生にとっては得意の語学を活用した職場で働けるメリットがある。ある社員は簿記2級相当を外国で取得済みで、CPA(公認会計士)、法学博士課程を取得し入社し即戦力に。

別な社員は母国から家族を呼び寄せ、住宅を購入。地域に溶け込むと日本人らしい気質に

### フジイコーポレーション

## 経産省「地域未来けん引企業」に選定

染まっているという。

またダイバーシティ経営で連続50年以上という大ベテランが数人いることも強味だ。幹部に人にとっては大きな安心感につながり業務こなしにくれる」と

中途採用の活躍も目覚まし

# 地産地消で地域経済に貢献

## 90%以上を県内で調達

い。藤井社長は「大都市圏と比べて入社し、次いでCAD、広報、較するとポテンシャルを100%使い切っていない。気づかな役割をこなしてきた。藤井社長は地域未来けん引企業に選定を契機に地元企業が地域経済を支えるような地産地消の

今冬の大雪では除雪機メーカーの「沽券」にかけ2月20日燕三条駅(燕側)の除雪に社員10人、除雪機2台を動員した。企業が公共施設の除雪をボランティアで行うことはまれで地元ニースサイトも取材した。藤井社長は「県外からの鉄道利用客は駅を降りた途端、雪がすくく大変だっただろう。社員は送迎場の雪をきれいに片づけ、懸命に作業してくれた」と

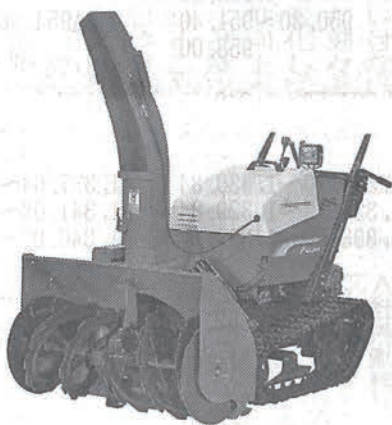
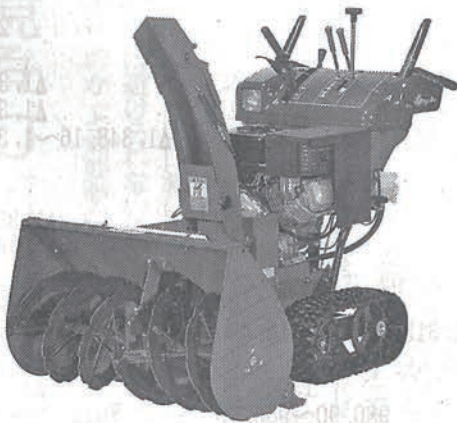
### 平昌五輪

フジイコーポレーション(本社・燕市、社長・藤井大介氏)は平昌五輪・パラリンピック会場のスキー場に除雪機30台強を納入した。納入したのはSKシリーズとSHシリーズ。

スキーボード会場では人口雪を小型除雪機で飛ばし、ビッグエアという競技の会場づくりに貢献した。同社の除雪機はこれまで有名ドラマの舞台となったスキー場で使用されるなど、現地での認知度が高まっている。当時の除雪機納

### スキーボード会場づくりに貢献

入のきつかけは新潟県内のスキー場で稼働していると藤森由香が女子ビッグエア押しした格好だ。で見事7位入賞。フジイコ



30台強を納入し、会場づくりに貢献したSKシリーズ④とSHシリーズ